

次世代に有機農法を承継 農業こそ持続可能な社会のモデル

有限会社古代米浦部農園 代表取締役社長

浦部 真弓



浦部 真弓 代表取締役社長

(昭和49年文学部卒)

「閉散期に薪割りフェスティバルや綿の収穫体験などを開催する観光農園にしていきたい。今、そのための宿泊施設をつくる最中です」



ありし日の浦部修氏と

南甲会員で先代社長の浦部修氏が2017年5月に亡くなつた。

幾多の困難を経て、目指す農業の実現へと近づきつつある時だった。残された浦部真弓氏にその重責がのしかかつた。苦悩の末、たどり着いた結論は……。

妻のために有機米を栽培

——夫婦ともに都庁に勤務していました。どうして農業を始めたのですか。

都庁勤務といつても、実際の勤務先は江東区役所でした。ところが、私が33歳の時に難病のベーチット病を発症。皮膚やのどなどに炎症を起こし、繰り返すのです。

そのうち化学物質過敏症のようになつて、何も食べられなくなつてしまつた。唯一食べられたのが、西葛西駅前にあつた自然食品店のもの。でも、なかには有機と表示されているが炎症を起すことがありました。完全な有機栽培じゃなかつたんですね。

——体が正直に反応してしまう。白米は、有機でもダメで、玄

米を食べ続けると炎症が治まるけれど胃腸を荒らしてしまう。白米に戻すと炎症をぶり返す。当時、ステロイド治療をしていたのですが、長く使用すると、腎臓や肝臓を悪くすると言わされて止め、痛みに耐えていたんですね。ところが、40歳で退職。農家だった夫の実家、群馬県藤岡市に転居してきたのです。自分が食べる有機米をつくっていましたが、どうしても乾燥調製機、粉すり調整機、無農薬だから保冷庫も必要でした。財形や個人年金を崩して、貯金も叩いてそれらを揃えたのです。

——先代社長は、まだ都庁に勤務していたのですか。

兼業農家として、片道2時間半かけて東京まで通っていました。子どもたちの教育費もかかりますし、高齢だった両親は国民年金しかない。

それで、わずかでもお金にしたいと、自分の食べる分を除いて残りを売り出したんですよ。そしたら売れに売れて。つくれば売れるので農地を借りて徐々に拡大、知らぬ間に30ha(30万m²)になつていました。もう、夫は役所に勤

めていられません。2004年に辞職し、専業農家になりました。同時に法人化して、翌年から次世

代に有機農法を承継するため研修生を受け入れ始めました。
—古代米は、いつから栽培していますか。



①社員と知人の技術支援者 ②8月には雀よけの防鳥ネット張り ③コンバインで稲刈り ④古代米。白米または玄米1合に大さじ1杯入れて炊くだけ。お米の美味しさを引き立て、プチプチとした食感も楽しい。⑤玄米(左)と13種類の穀物ブレンド(右)は古代米と同様の炊き方



27年前からです。娘たちの用事で湯島天神に行つた時、露店で赤や黒の米を売っていた。稻穂1本2000円で3万円ほど買って持ち帰った。すると夫は「米に3万円もかけるなんて気が知れない」と。でも、白米と混せて食べてみると炎症は起きない。追加注文すると「米はないが、種粉だつたらある」とのこと。5万円分を購入。届いた種粉は「種粉は塩水に浸すと全部浮いてしまう。それでも種らしきものがあるので蒔いてみたら、しっかり芽が出てきたんですね。その後は、試行錯誤しながら、この土地に合った有機農法を築きました。私のベーチット病もいつの間にか治っていました。古代米の消炎作用や抗アレルギー作用の効果でしょう。

—2011年に東日本大震災、原発事故が起きました。

襲いかかった最大の試練

—それほどの打撃を受けても再起を決意されたのですね。

そうしたら、地方紙で発行部

立し、お得意さまも増えて、研修生も順調に育つて、これからといふ時でした。群馬県は、汚染された17都道府県に指定され、収穫した米の売り先を失つてしましました。研修生は農業をやる自信をなくして辞めていく。「面積を小さくしましよう」と私が言うと、夫は「僕たちは無借金で経営していくから簡単に畳める。だけど、僕らのところで育つた独立間もない若者は、借金を抱えている。販売力も弱い。過去のデータもない。東電の補償も受けられないと思う。それを見捨てるのか」と私は怒られた。まあ、立派な旦那さんは持つとしようがないですね(笑)。

—在庫となつたお米はどうされましたか。

産業廃棄物として300万円かけて処分しました。その後、全品検査で残留放射能が1ベクトル未満という結果が出ても、お客様の多くは戻ってきませんでした。

そうした折、抹茶カフェ「ナナズグリーンティ」を全国展開している株式会社マッチングの話がきました。ランチのお米を有機米に替えるという大英断を社長がしてくださいました。ところが、ロット数が大きく、浦部農園の規模では受けられません。そこで、集荷事業に乗り出し、精米工場や集荷のための保冷庫を建てて有機農業者のネットワークを構築させたのです。ただし、扱うのは放射能検査で1ベクレル未満の有機米だけです。

法人化して7年目。技術が確立し、お得意さまも増えて、研修生も順調に育つて、これからといふ時でした。群馬県は、汚染された17都道府県に指定され、収穫した米の売り先を失つてしましました。研修生は農業をやる自信をなくして辞めていく。「面積を小さくしましよう」と私が言うと、夫は「僕たちは無借金で経営していくから簡単に畳める。だけど、僕らのところで育つた独立間もない若者は、借金を抱えている。販売力も弱い。過去のデータもない。東電の補償も受けられないと思う。それを見捨てるのか」と私は怒られた。まあ、立派な旦那さんは持つとしようがないですね(笑)。

そうした折、抹茶カフェ「ナナズグリーンティ」を全国展開している株式会社マッチングの話がきました。ランチのお米を有機米に替えるという大英断を社長がしてくださいました。ところが、ロット数が大きく、浦部農園の規模では受けられません。そこで、集荷事業に乗り出し、精米工場や集荷のための保冷庫を建てて有機農業者のネットワークを構築させたのです。ただし、扱うのは放射能検査で1ベクレル未満の有機米だけです。

⑥



⑦



⑥⑦浦部農園のセミナーハウス「宴樹亭」。和惣菜のつくり方、着物の着付け、お茶会など日本伝統文化を伝えるセミナーを開催。樹齢700年の槐(えんじゅ)の木を中心に宮大工が建てた伝統的な日本建築

—— そうした事業が評価され、賞をいただいたのですね。

2015年に政策金融公庫から「輝く経営大賞」を受賞しました。

道はひとつだけ 「原点回帰」

—— 大きな試練をチャンスにして乗り越えられましたね。

本当は、65歳で事業を承継して、私たちにはリタイアしようと話していました。でも、原発事故でその計画が遅れ、今度は70歳を目指していたのです。そうした矢先、夫にすい臓がんが見つかりました。余命3ヶ月の宣告でした。夫は「仕事が残っている。あと3年は生きたい」と。翌年から研修生ではなく、正社員採用に切り替えて、

—— 重い言葉を残してお亡くなりになりましたね。

夫は、点滴を背負ってまで仕事をしていました。本当に農業が好きだったのです。

—— 経営者として1人で解決しなければいけない。

本当は、若い子に株を持たせて社長にして、私は相談役として

夫のかねてからの意志である血縁でない事業承継の体制を整えていました。そして、念願通り3年生きて昨年5月に息を引き取りました。

私は、あの兼業農家をやつて14年間がなかつたら、研修制度を探らなかつたら……がんにならなかつたのではと思うと悔しい。でも、夫が最後に残した言葉は「僕たちおもしろかつたでしょ。あの時代があつたから今がある。僕の人生はがんになつたことを含めてこれでよかつた。後は君がいるから大丈夫」。

夫は、点滴を背負ってまで仕事をしていました。本当に農業が好きだったのです。

—— 経営者として1人で解決しなければいけない。

本当は、若い子に株を持たせて社長にして、私は相談役として

夫が亡くなると将来を心配して辞めてしまつた。現在、女子4人と男子1人です。うちは、男女とも同じ扱いです。大型特殊免許もオーバーリフトの免許も取らせて、今、女子が82馬力のトラクターにも乗っています。皆、一生懸命やつていますが、まだ技術が伴わず、圃場を19haまで落としたのですが、1反6俵の米が収穫できるところ、4俵に落ち込んでいます。

しかも、機械操作がまずくて隣の畦畔を削つてしまいクレームが来るなど問題が山積みです。

—— 経営者として1人で解決しなければいけない。

夫の意志だつた有機農法を次世代に承継するという「原点回帰」です。そう、原点に戻つて全員で創意工夫をして進む。また、私たちを信頼して支援し続けてくださったお客様のためにも前進するしかないのです。

になりましたね。

大黒柱が倒れるとさまざまが起こりますね。夫が口約束していた農地を買う話。穀物倉庫として借りていた土地の売却の話。400坪の宅地と1haの農地を浦部農園の若者に200万円で譲りたいという話。次から次へと解決しなければならないことが起きてくる。

さらに、夫が幹部候補生として採用した正社員の男子2人が、夫が亡くなると将来を心配して辞めてしまつた。現在、女子4人と男子1人です。うちは、男女とも同じ扱いです。大型特殊免許もオーバーリフトの免許も取らせて、今、女子が82馬力のトラクターにも乗っています。皆、一生懸命やつていますが、まだ技術が伴わず、圃場を19haまで落としたのですが、1反6俵の米が収穫できるところ、4俵に落ち込んでいます。

しかも、機械操作がまずくて隣の畦畔を削つてしまいクレームが来るなど問題が山積みです。

—— 経営者として1人で解決しなければいけない。

夫の意志だつた有機農法を次世代に承継するという「原点回帰」です。そう、原点に戻つて全員で創意工夫をして進む。また、私たちを信頼して支援し続けてくださったお客様のためにも前進するしかないのです。

仕切りたかつた。でも、取引先が首を縊に振りませんでした。「わかりました。私が社長を後5年続投します」となつて社長の名刺をつくりました。

もう、腹を決めました。潰してもいいと思ったこともありました。選択肢があることが一番苦しかつたです。追い詰められて目先のことしか考えられませんでした。

何をもつて決断されましたか。何のために浦部農園を残すのか。今、すべてが成長産業型ですが、成長してはいけない産業があるわけです。例えば農業は、規模拡大での成長はあるが、同じ面積で成長したらおかしい。土地を壊していくことになるから。その土地で収穫できる最高の俵数は変わらないません。その俵数を維持するために、きちんと手入れしていくのが農業です。農業こそ持続可能な社会のモデルだと思うのです。

夫の意志だつた有機農法を次世代に承継するという「原点回帰」です。そう、原点に戻つて全員で創意工夫をして進む。また、私たちを信頼して支援し続けてくださったお客様のためにも前進するしかないのです。